

著者の識別に向けて

オープンアクセス環境下における
同定機能導入のための恒久識別子実証実験

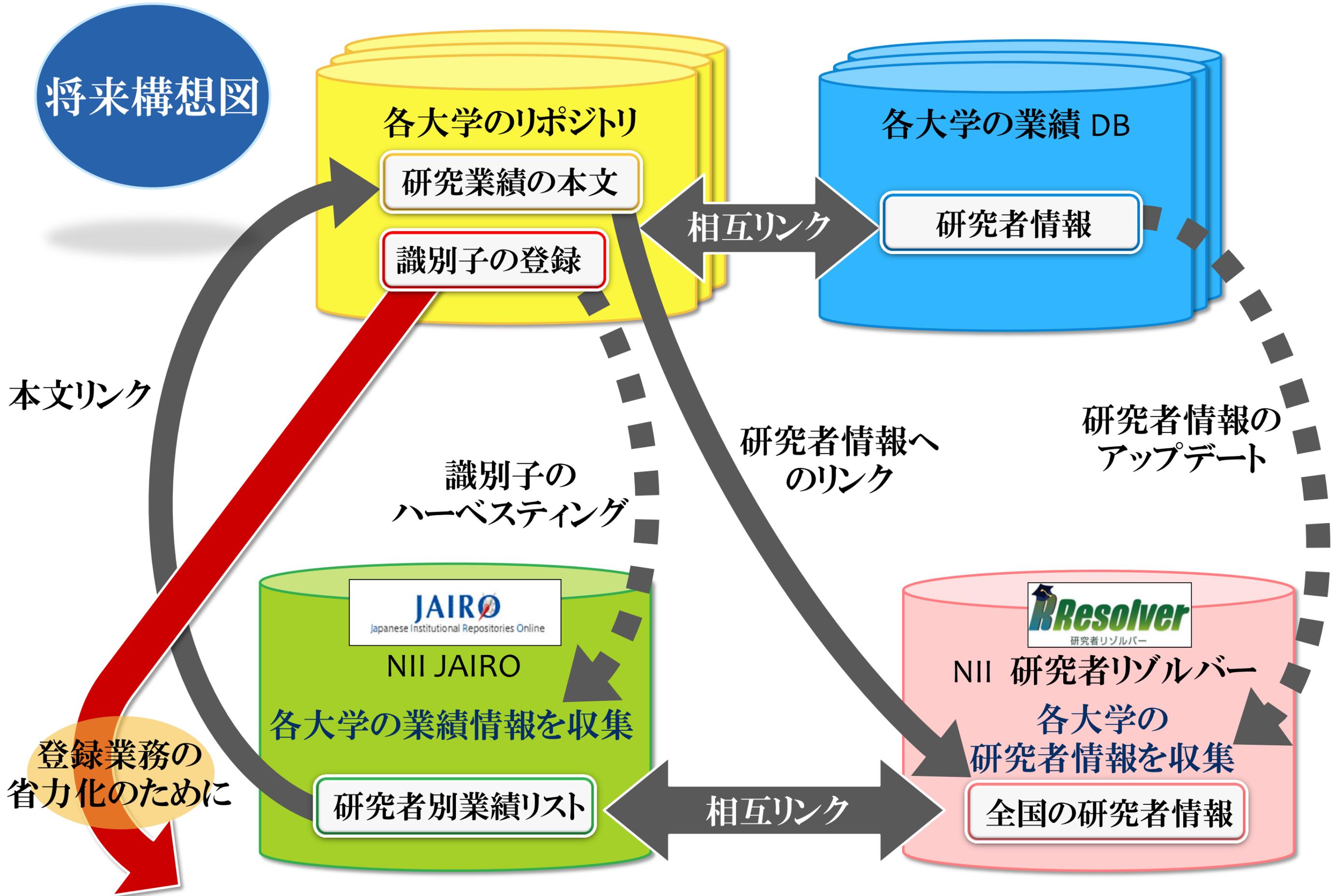
平成22年度CSI委託事業 領域2

作成者注

このページはタイトル印刷用のため、下半分は空白です。

研究者を同定するためのシステム間連携

将来構想図



DSpace 1.4 から DSpace 1.6 へバージョンアップ

金沢大学学術情報リポジトリ KURA のシステムを DSpace 1.4 から DSpace 1.6 へバージョンアップ。同時に著者識別子の遡及登録を行った。

金沢大学学術情報リポジトリ KURA のシステムを

DSpace 1.4 から



DSpace 1.6 へバージョンアップ。
同時に著者識別子の遡及登録を行った。

見た目は以前とあまり変わりません。

DSpace 1.6 による著者識別子の入力

DSpace 1.4 との違い

DSpace 1.6 は各メタデータに典拠データを持たせる機能を標準装備している。

著者名典拠の検索ボタン。
ここをクリックすると、

著者名を記載されている言語で入力。団体著者は姓に入力

姓
たとえば、山本

名
たとえば、太郎

著者 柴田 正良

著者識別子の入力欄を作成した。

このような画面が現れます。

名前典拠検索

"柴田, 正良"の結果: 1 - 2 / 2

1. 検索結果

柴田, 正良: 20201543
ローカルの値 '柴田, 正良' (名前典拠の値ではない);

2. 選択値(修正可)

柴田	姓
正良	名
20201543	典拠コード

3. 処理選択

許可 次の結果を見る キャンセル

機関リポジトリ(KURA)内の識別子を著者名検索して表示する。

KURA 内にない場合は、
KAKEN: 科学研究費補助金データベース
を著者名検索して表示する。

KURA では参照先を KURA と KAKEN: 科学研究費補助金データベースの
2つに設定しているが、その他のデータベースも設定可能。

直接入力も可能。
新規の著者はここで入力を行う。

自動で入力される。登録のたびに手入力をしなくてよい。

著者名を記載されている言語で入力。団体著者は姓に入力

姓

名

JAIRO には以下の形式でハーベストされる。

<creator id="20201543">柴田, 正良</creator>

皆さんの IR も
バージョンアップ
しませんか？

名寄せのこれから ～研究者 ID サミット～ を開催

近年、論文数が増加し、国際的な研究協力も進んでいる。そのため、名寄せが必要になってきた世界の動向、金沢大学の実証実験、その他の事例について情報共有し、著者同定はこれからどうなるのか、何をしていくとよいのかなどについて話し合いを行った。



なぜ研究者の名寄せが必要か
～世界の動向と研究者リゾルバー～

歳川圭(国立情報学研究所)

研究者の学術研究の貢献度を正確に測るには、研究者の論文を並べる必要がある。そのために名前の曖昧性の問題を解決して、研究成果に記述された著者の名寄せを行わなければならない。著作者に識別子をつける活動には、ORCID、VIAF、ISNI などがある。NII の研究者リゾルバーもその一つ。研究者識別子があると、論文の名寄せだけでなく、様々な応用も考えられるのではないだろうか。



研究者同定に向けての実証実験
～金沢大学の CSI プロジェクト～

守本瞬(金沢大学)

IR、大学の業績 DB、JAIRO、研究者リゾルバーの4システムを研究者識別子で連携することで、名寄せができるシステム構築の実験を行なっている。必要と思われる連携システムの構築はほぼ終了し、今後は実験対象の拡大を考えている。今年度は機関リポジトリを DSpace1.6 にバージョンアップし、研究者情報関連の取り扱いが簡便になる予定である。

作業用データベースを介した著者同定



徳安由希(九州工業大学)

「リポジトリ作業管理システム」を構築している。業績 DB からのデータも、直接リポジトリに登録するデータも、この管理システムを通してリポジトリに公開する。もともとは、作業管理用のエクセルファイルをシステム化したものである。結果として、登録に承諾した著者のみ同定できている。研究者情報は図書館システムの利用者データと連携しており、職員番号をもとに著者同定を行っている。

今後の課題

- どのような ID 体系にするか。
→各大学で決めるのが基本だが…
- 研究者リゾルバーで必須としている組織識別子の検討。
- 日本の研究領域には、和文の世界と欧文の世界がある。どちらにもコミットするしくみの検討。
- 名寄せに関するワーキンググループ(今回の参加者を中心に)の立ち上げ。
- ORCID は巨大な分動きが遅いので、海外に先駆け、日本で先にシステム完成を目指す。

研究者 ID とリポジトリシステム
～デモンストレーションと
質疑応答を含めて～



鈴木敬二(元大学図書館職員)

DSpace1.6からは「典拠フィールド」が標準で実装されるため、著者典拠からの検索で研究者識別子を簡便に扱えるようになった。DSpace 内に典拠が作られると、別表記の著者も検索可能である。金沢大学で実験している方法は DSpace1.6 へのアップグレードが前提になるので、サステナビリティの確保ができるかどうか。E-Repository, XooNips, WEKO などへの対応も考える必要がある。